

史奉親朝臣云、除目清書可被奉、左府歟云云、除目專不奉也、奉親至愚之又至愚也、奉親朝臣參入省不參內、以下臚史令奉仕御裝束、是極冷談事也、敦頼朝臣所申也、○中後聞諸卿候東三條之間、喚使申可參內之由、打手同音咲、其後嘲哢無極、大藏卿執石打召使兩三度云云、狂亂歟、有神咎歟、有天譴歟、可謂至愚者也、廿八日乙丑、新后以亮爲任朝臣、被仰、昨日行事之悅、參內一兩卿相相共參中宮御方、左府卿相數多被候、思昨日事、彌知王道弱、臣威強、○中今夜自皇太后宮退出之間、資平侍車後云、今日候內陪膳、仰云、近可祇候者、仍進候御臺盤下、仰云、昨日立后事、無止思事也、而始自大臣諸卿不參、大將藤原朝臣、應召即參入、行件大事、悅思無極、久在東宮、不知天下、今適登極、可任意也、不然之事、愚頑也、有可然之時、可云合雜事之由、可傳仰此事、汝不外漏、又大將不可漏之人也、汝有所見、仍所傳仰也、仰了早起入給者、余戒云、努々不可談、妻子、但明日必候陪膳、只可奏、恐由也、希有仰事也、卅日丁卯、右衛門督示送云、依召今朝參內、被仰立后日事、爲公大辱、不爲皇后、上達部冷談、不可仰盡者、後日早參行事、尤悅思、可傳仰者、且以資平令仰者、食祿之身、雖背王命、素飡之責、日夕所歎、五月一日戊辰、參內、○中右衛門督云、昨今候御前、被仰云、立后事、右大將應召參入行事、一所悅思、一伊止保之久奈武思、有可憚恐、諸卿不參、猶參執行、可傳仰此由者、奏以恐申之由、亦談云、左大臣等可爲極奇、惟也、諸卿同心失朝威、歎思不少、依如此事、命蹙欲保、頗有所思、食歟者、申刻退出、

〔榮花物語日世中にはけふあすきさきたせ給べしとのみいふは、かんの殿○藤原道長女、三條后姪にや、また宣耀殿三條后姪子にやさも申めり、かゝる程に宣耀殿にうち○三より、

春がすみ野邊にたつらんと思へどもおぼつかなきをへだてつるかな、ときこえさせ給へれば御かへし、

かすむめるそらのけしきはそれながらわが身ひとつのあらずもあるかな、と聞えさせ給へれば、あはれとおぼしめさる、○中内にはかんの殿のささきにむさせ給べき御事を、殿○道にた